



ASEAN諸国の学生さんたちと交流しました！



11月11日（金）に本校英語部17名が、長崎大学経済学部で行われたASEAN諸国の学生との交流会に参加しました。この交流会は、外務省が主催する国際交流事業JENESYS2016の一環として行われ、ASEAN10か国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）に加え、東ティモール及びインドから、平和構築分野に関心のある大学生等48名が長崎を訪れました。



交流会は、まず学生さんたちが国別に自己紹介をし、その後、小グループに分かれ、長崎大学の学生さんと本校英語部の生徒たちが加わり、交流を行いました。日本人参加者は、初めてのうちは緊張した面持ちでしたが、JENESYS参加者の陽気さに引き込まれ、いつしか会場は楽しそうに談笑する声と笑顔でいっぱいになりました。ベトナムの伝統的な遊びが紹介されたグループでは、英語部2年生の本多妙果さんがお返しに「アルプス一万尺」の手遊びを紹介し盛り上がっていました。



今回のJENESYSグループは「平和構築交流」をテーマに来崎していました。英語部では、事前に長崎の平和教育について英語で説明する準備をして会に臨みました。1年生の一ノ瀬音葉さんは、カンボジアからの参加者に自らの平和学習の体験も交えて説明しました。一ノ瀬さんは「『カンボジアでは原爆投下の事実しか教わらないが、長崎での平和学習は熱心だ。』と言われた。広島での惨劇も合わせて、平和の大切さを世界に広めていけるようになりたい。」と感想を話してくれました。

英語部の人たちからは、「なかなか単語が出てこなくて、身振り手振りや表情で言いたいことを伝えようと頭をフル回転させました。」「アジア人独特のなまりがあって聞き取るのが難しかったけど、世界中の人々とコミュニケーションを取るには、やはり英語が必要だと思った。」という声が聞かれました。特に11月末に修学旅行でシンガポール、マレーシアを訪れる2年生には、これから訪問する国の人たちと直に話をするのが貴重な体験となりました。

わずか1時間の交流会でしたが、国境を越えて笑顔あふれる時間を共有できたことが、平和構築につながることを全ての参加者が実感できたようです。

